

## 敬意（上）

説明： 神への敬意とは、かれに従うことを意味します。

よりアーイシャ ステイシー

掲載日時 13 Jan 2014 - 編集日時 22 Jun 2020

カテゴリ： [記事](#) > [崇拜行為とその実践](#) > [イスラーム的モラルと習慣](#)



名誉を与え、尊敬し、高く評価すること。これが、最も広く理解されている「敬意」の定義です。事実、類義語辞典は敬意について、人々の気持ちに思いやりを示すことであり、敬意を「名誉」「親切さ」「従順」「寛大さ」の語と関連付けています。では、イスラームにおける敬意の役割とは何でしょうか？イスラームでは、すべての被造物に敬意 榮譽 尊敬を示すことは、各人の責任であると述べます。もちろん、最たる敬意に値するのは、創造主その御方です。敬意とは神の戒律に従い、愛することから始まりますが、そこからイスラームに内在する礼節、そして高い水準の倫理観がすべて派生します。

“アッラーと使徒に服従し、アッラーを畏れ、かれに自分の義務を尽くす者、そのような人々こそ（最後の目的を）成就する者である。”（クルアーン24:52）

成就する者となるため、各人が創造主に従い、人類、環境、信仰者たち、そして自分自身とも敬意をもって向き合えるようになることをイスラームは求めます。忘れてはならないのは、信仰者たちは一つの共同体を形成し、共同体の一部であっても危機にあれば、その全体も同じく危機に陥るということです。それゆえに、お互いに敬意を示している相互関係は重要なことです。私たちが責任を持たなければならないのは、自らの思考と行動だけでなく、他者と被造物に対して持っている影響力でもあるとイスラームは説きます。イスラームはまた、私たちに勸善懲悪を命じます。イスラームは、神の性質である平和 愛情 慈悲のそれぞれを敬意と結び付けるため、神への敬意 服従という義務を果たすためには、他人の名誉 評判 プライバシーを尊重しなければなりません。敬意を払うということには、陰口 嘔中傷 噂話などの大罪から完全に離れ去ることが求められます。

人への敬意とは、人々の間に争いの種をまき、破滅へとつながるような罪から遠ざかるということです。敬意には、自分が望んでいるものを他者にも望むような同胞愛も含まれません。また敬意とは、自分が接して欲しいように他者に接することであり、さらには神が私たちに接して欲しいと望むような思いやり 愛情 慈悲をもって他人と接することです。大罪を行うことは、人類と神の慈悲の間に障壁を設け、あらゆる苦悩 困窮 悪を人の現世と来世の双方にもたらします。神は私たちに罪から遠ざかるよう命じ、自らの破滅的な欠点の克

服のために努力するよう命じます。また神は、邪推 陰口 噂話は恥辱と不名誉をもたらすもの以外の何でもないことであると指摘します。

“ 信仰する者よ、邪推の多くを被え。本当に邪推は、時には罪である。無用の詮索をしたり、また互いに陰口したりしてはならない。死んだ兄弟の肉を、食べるのを誰が好もうか。あなたがたはそれを忌み嫌うではないか。アッラーを畏れなさい。本当にアッラーは度々赦される方、慈悲深い方であられる。” (クルアーン49:12)

預言者ムハンマドの教友であり、クルアーンの解釈者でもあるイブン アッバースは、神は屍肉を食用にするのを禁じたのと同じように陰口を禁じたのだと述べています。屍肉を食すことは、人が本能的に忌み嫌うことであり、人はそれと同じように他者への陰口を忌み嫌うべきなのです。敬意とはお互いへの思いやりを持つことなのであって、屍肉をむさぼる野獣のように人格攻撃をすることではないのです。

## 陰口

一部の人々は、陰口は「単なる言葉」に過ぎないと主張し、その害の有効性に疑問を呈します。しかし言葉には、実に強力で広範におよぶ効果があります。陰口に関しては明らかな敬意の欠如に加え、「単なる言葉」は中傷された側には苦痛と、中傷した側には地獄の炎が与えられます。預言者ムハンマド(神の慈悲と祝福あれ)は、無礼な言葉を発する者に待ち受ける運命について警告してこう述べています。「人は成り行きを予期せずに何らかの言葉を発するかもしれないが、それによって彼は東西の距離よりも遥かに深く地獄に投げ込まれるのである。」[1](#)

あるとき、預言者に近い教友の一人が、いかに天国に入り、地獄から遠ざかるべきかについて預言者に質問しました。預言者ムハンマドは善行の徳について言及し、彼が善行の基礎について知りたいかどうか尋ねました。その教友が「もちろんです」と答えると、預言者ムハンマドは自らの舌を掴んでこう言ったのです。「これを控えるのだ。」教友はいぶかしげにこう問いかけました。「私たちは自らの発言について、責任を問われることになるのでしょうか？」預言者ムハンマドは、「舌の収穫したもの」よりも彼らを地獄に早く送り込むものは無い、と答えたのです。[2](#)。

陰口が「単なる言葉」に過ぎないものではないことが確証されたので、その定義を明確にさせましょう。陰口とは、軽蔑的に第三者についての会話をしたり、その人物が他人に話されることを好まないような話しをすることです。それが陰口と言われるのは、その話題にしている人物のいないとき、またはその人物の陰でそうされるからです。預言者ムハンマドは陰口について、「あなたの同胞について、その同胞が言及されることを好まないようなことに言及すること」[3](#)

であると述べています。イマーム ナワウィーは、陰口について「当該人物の身体的特徴、宗教的実践、現世的地位、風貌、人格、富、両親、子供、配偶者、召使い、衣服、活動、笑顔、しかめ面など、すべてに渡ることである。言葉によって明確に言及されたか、あるいは身振り手振りで不明瞭に言及されたかは関係ない」と説明しています。

預言者ムハンマドは真実の言葉と陰口との違いについても問われており、彼は陰口の辛辣性について説明した後、それと中傷との違いについてこう述べています。「もしもあなた

が彼について真実を述べたのなら、それでもあなたは陰口をたたいたことになるのである。もしもあなたが彼について嘘を述べたのなら、あなたは彼を中傷したことになるのである。」[4](#) 中傷とは虚偽の言葉を述べることで、それは大罪であり、厳重な懲罰の対象となります。

“ また理由もなく、男女の信者を不当に悩ます者は、必ずそしられて明白な罪を負う。 ” (クルアーン33:58)

預言者ムハンマドにまつわる別の伝承では、彼のこよなく愛した妻アーイシャが、彼の別の妻の一人について背が低い、または小柄と述べたものがあり、その際預言者ムハンマドは彼女の発言の重大性について明確にしています。彼はこう言いました。「あなたの発した言葉は、もしそれが海水と混ぜられたのであれば、それを汚染したことであろう。」[5](#)

現在、陰口は広く浸透しており、人々は怒りや嫉妬の表現法としてそれを用いています。それに関わる者は、神に不従順であること、また他者を害していることから、神に敬意を示していないことになるのです。雑誌やテレビ番組は、噂話や他人の人生の詮索に尽力します。そこにはプライバシーの尊重などというものはなく、一般的に信じられていることに反して、噂話の情報源は他人の人生ではありません。習慣的に噂や陰口に耽り、自らの欲望に対する努力を怠り、神の赦しを求めない人物は、自分自身に対する敬意をすべて失います。そうした人物は、地獄の業火を怖れることが既になくなっていくからです。その罪は重く、懲罰は厳しいですが、神は慈悲深き御方であり、真摯な悔悟をいつでもお受け入れになります。

“ それであなたがたの中、無知で悪事を行った者も、悔悟してその身を修めるならば (許される)、本当にかれは寛容にして慈悲深くあられる。 ” (クルアーン6:54)

---

Endnotes:

[1](#) サヒーフ ブハーリー、サヒーフ ムスリム

[2](#) ティルミズィー、イブン マージャ

[3](#) サヒーフ ムスリム

[4](#) 同上

[5](#) ティルミズィー、アブー ダーウード

この記事のウェブアドレス :

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/1721>

Copyright © 2006-2015 [www.IslamReligion.com](http://www.IslamReligion.com). All rights reserved.

